

令和3年度（2021年度）学校評価報告書

学校園名	宝塚市立 安倉 幼稚園	校長名	吉田 ゆかり
------	-------------	-----	--------

1 学校教育目標

【教育目標】 心身ともにたくましい幼児の育成

【研究主題】 「幼児の育ちと学びをつなげる幼小接続をめざして」
～やる気・本気・根気 あきらめない心を培う保育実践～

2 重点目標

- 幼児の学びにつながる体験を豊かに広げ、保育の充実をめざす
- 家庭・地域と共に育ち合う幼稚園づくりをめざす
- 幼児の育ちを支える心豊かな教師集団づくりを進め、教師の資質向上をめざす

3 学校自己評価結果（A：優れている B：良い C：おおむね良好 D：要改善）

領域	評価の観点及び評価項目	達成状況	学校の取組状況・改善の方策
園運営	開かれた幼稚園づくり	B	<ul style="list-style-type: none"> ・園の様子を実際に見てもらうことは難しい状況にあったが、保護者に向けては、子どもたちの様子を写真にコメントをつけて掲示し、子どもたちの興味や育ちが保護者に伝わるようにした。また、ホームページで、地域や未就園児のいる家庭に向けても、園の様子が伝わるように取り組んだ。 ・太鼓に年間を通して取り組み、地域の催事に参加して発表したり、園児の作品を地域で展示してもらったりなど、園の様子を地域に知ってもらう機会を生かすことができた。 ・園外保育で地域の公園に出かけたり、近隣の学校に出かけたりするなど、子どもたちの気持ちが自分たちの住む地域に向くように取り組んだ。
		B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭や地域への情報発信を行う。 ○ 幼児の体験が豊かに広がるように地域のよさに気付かせたり、取り入れたりしながら保育を進める。
	子育て支援の推進	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に細やかに声をかけ、懇談などで保護者の思いに寄り添いながら、共に子どものために考える姿勢を示し、子育て相談など必要な支援につなげられるように努めた。 ・未就園児教室では、感染対策のため、参加人数を絞る必要があったが、希望者が昨年より多かったため2部制にして、参加できるようにした。また、できるだけ定期的に開催するようにしたため、未就園児が幼稚園の雰囲気慣れ、同年齢の子ども同士触れ合う機会となった。
		B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幼児の成長を中心に据え、親と子の育ちの場としての役割を果たす。 ○ 未就園児親子への支援を行うため定期的に保育の場を提供する。
体制の整備	危機管理	B	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に行うことで、保育者の役割分担を意識し取り組めた。また、子どもたちも自分の命を守るために何に気を付けなければならないか、分かって動けるようになってきている。 ・来年度も様々な想定で訓練を行い、消防署の方を招いての訓練も再開する等職員の防災や安全への意識を高めていきたい。
		B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 危機管理マニュアルにそった定期的な訓練、安全対策を行う。
資質向上	教職員の	B	<ul style="list-style-type: none"> ・市の指定研発表に向け、職員間でテーマやキーワードを視点として幼児の育ちや課題について、共通理解を図りながら取り組むことができた。 ・研究主題に基づき、隣接小学校の先生方と、実践事例を基に幼稚園、小学校の互いの立場からみた子どもの育ちについて、意見交流ができた。また、幼児期から児童期に向けて、粘り強く取り組む力について、見通しをもって育ちを捉え保育に活かすことができた。
		A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師間で、幼児の育ちについて話し合う機会をもつと共に、研修での学びを通して幼児理解に努める。 ○ 研究主題を共通理解し、職員間で幼小接続を意識して主体的に粘り強く取り組む幼児の育ちに向けて保育を工夫する。

4 評価項目ごとの

学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域への発信として、文化祭や福祉センターへの園児の作品展示をしたことは、とてもPRにつながっていた。地域の方も、園児の作品を喜んで見ておられ、とてもよかった。また、地域での太鼓の演奏をしたことも、とても印象に残っている。今後もこのような機会があれば生かしてほしい。 ○ 次年度も地域への関心が高まるように、機会を見つけて園外保育に出かけるとよい。学校を利用しての園外保育は、小学校に向けての意識にもつながり、継続するとよいのではないかと。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者への寄り添いは、子育ての支えになる。幼稚園での姿を知らせつつ、家庭での子育てが孤立しないように支えてほしい。 ○ 未就園児が幼稚園に来る機会が増えたのはよかった。入園までに親子同士がつながる機会を幼稚園が中心となって作っていくことが望ましい。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 避難訓練は継続して行ってほしい。地域でも防災に向けての意識を高めてほしいと願って、取り組みをしているところである。幼稚園での避難訓練などを通して、家庭の意識を高めてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 研究をしていくことは、先生たちにとって必要なことである。今年度は大きな研究会に向けて、取り組んでいたし、小学校との連携という以前からの取り組みを継続して小学校の先生たちと連携できたのはよかった。

教育課程	幼児期にふさわしい生活の展開	○ 幼児の興味や関心に基づき、主体的に根気強く取り組めるような保育内容を工夫する。	B	・あきらめずに取り組める幼児を育てようと、全職員が意識しながら援助や言葉かけを行うことができた。 ・コロナ禍で感染対策のために教師主導となりがちであった昨年度の課題から、幼児が自ら考えて決めていけるように考え合う機会を大切にしてきた。 ・チャレンジタイムで一人一人が目標をもち意欲的に取り組めるようにした。あくらっこフェスタや竹馬・パカポコ大会などで、保護者にも幼児の頑張りが伝わる機会をもち、幼児のできたという自信と保護者の認めが得られるようにした。	○ どのような行事や生活が子どもたちにとって良いのかということは、十分考えられていると思う。いろいろなことに挑戦しようとする気持ちが育っている。また、挑戦することにより、あきらめない気持ちも育っているのではないかと。
	基本的な生活習慣及び道徳性の芽生えの育成	○ 挨拶や身辺整理、手洗い等をはじめ、園生活全般を通して、新しい生活様式を踏まえた基本的な生活習慣を育成する。 ○ 葛藤やトラブルを乗り越える体験ができる場や機会を逃さず、あきらめない心の育成に努める。	B	・基本的な生活習慣は、感染対策に関して幼児なりに意味を理解し、自らやろうとする姿が多く見られた。 ・困ったことや友達とのトラブルの場面で、教師が支えたり見守ったりしながら、幼児が自分の気持ちを相手に伝えき、自分の力でやり切ることができるようにしてあきらめない心の育ちにつながるようにした。	○ コロナ禍の生活が続き、子どもたちにも手洗いやうがいなどが習慣化し、衛生面の意識が身に付いている。 ○ 子どもたちに、自分の力を信じてやり切る大切さを今後もいろいろな機会をとらえて伝えてほしい。困難を乗り越えようとする気持ちを育ててほしい。
	校種間連携	○ 保・幼・小・中・養護学校と交流等について話し合う場をもち、教師間で共通理解を図る。特に小学校への学びのつながりについて、意見交流を行い、共に育てる意識をもつ。	B	・子ども同士の交流の機会はおもてなかったが、小学校の先生方と、何を大切に幼児期の育ちを見ていくか、それが就学後のどのような姿となって育っていくのかということについて意見交流することができた。	○ 交流を進めるのは難しい状況だと思うが、安倉の地域の子どもをともに育てていくという気持ちをもって継続してほしい。
課題教育	人権教育	○ 幼児期の特性を踏まえ体験を通して幼児期にふさわしい人権意識の育成に努める。	B	・様々な機会を通して、違いを受け入れられる幼児を育てていくことが大切であると感じた。また、絵本やロールプレイを通して、自分と相手の立場を置き換えて考えられるようにして、幼児が自ら気付くことができるように工夫した。 ・今後も教師自身の人権感覚を磨いていけるようにしていきたい。	○ 人権を大切にする気持ちの元の部分を幼稚園で育てている。いろいろな気持ちに気付いて行けるように育ててほしい。
	特別支援教育	○ 幼児一人一人の課題を明確にし、教職員全員で共通理解を図り、幼児の実態を踏まえた指導を工夫する。	B	・支援を必要とする幼児に対して、職員間で理解をしようと同時に、教師がしている支援に対して、研修等で指導を受けたことを生かしてかわるようになってきた。手立てについて柔軟に取り入れたり支援児にふさわしいものを見直したりしながら、進めてきた。	○ 支援を必要とする幼児がいると思うが、今後も個々の特性に合わせて支援をしたり、保護者を支えたりしてほしい。
	防災教育	○ 様々な事態を想定した避難訓練等に取り組む機会を通し、教師の防災教育に係る指導力・実践力の向上に努める。	C	・定期的に行うことで、幼児への指導について課題に気付くことができた。水害に備えた訓練などにも取り組み、多様な事態に対応できるよう努めたい。	○ 幼稚園での防災教育を通して、地域のことも目を向けられるようになるとよい。また地域での取り組みも利用できることはしていくとよい。

5 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

行事ごとに保護者へのアンケートを行い、意見を聞く機会をもっている。それをもとに評価を進めているのでこの方法でよい。

6 総合的な学校関係者評価

状況に合わせて、子どもたちにとって、よりよい保育を求め進めていると思う。笑顔で子どもたちを家庭に返せるように、また、小学校教育へとつながっていくことを意識して、今後も幼稚園教育を進めてほしい。